

「脱平均」時代の共創イノベーション戦略とは

PROGRAM タイムテーブル

- 14:00～14:15 開会挨拶 久慈 直登 JIPA専務理事
- 14:15～14:45 **I プロジェクト報告：ベンチャー連携において従来企業の知財部門が直面する課題**
報告者 長谷川 正憲 JIPA知財活性化PJサブリーダー（キャノン株）
- 14:45～14:55 **講演者・パネリスト紹介**
紹介者 大水 眞己 JIPA常務理事・知財活性化PJリーダー（富士通株）
- 14:55～15:25 **II 基調講演：『価値デザイン経営』によるベンチャーとのイノベーション**
講演者 住田 孝之氏（前・内閣府 知的財産戦略推進事務局長）
- ～ 休憩 ～
- 15:30～16:30 **III パネル討議：すべての参加者に Win-Win をもたらすエコシステムを目指して**
モデレータ 大水 眞己（前出）
パネリスト 住田 孝之氏（前出）
北野 譲治氏（イーパーセル株）
平井 宏明氏（三井住友海上キャピタル株）
高江 瑞一氏（株日立製作所）
- 16:30～16:45 閉会挨拶 佐野 裕昭 JIPA副理事長（住友電気工業株）
- ～17:00 退室（東京会場は、混雑回避のため、エレベータは使わず階段にて1階までお降り下さい）
- 17:00～18:00 登壇者を囲む意見交換会（TGビル本館2階 カンファレンスルーム202）



JIPAビジネス知財シンポジウム2019

ベンチャー連携において 従来企業の知財部門が直面する課題



日本知的財産協会
知財活性化プロジェクト



アジェンダ

1. VS(ベンチャー/スタートアップ)連携を促す世の潮流
2. 既存企業がVSと連携する目的
3. 連携の手法
4. 目的・成果・手法の決定
5. VS連携の仮想事例
6. 知財部門の課題
7. これからに向けて



1. VS連携を促す世の潮流

知的財産推進計画2019の3つの柱



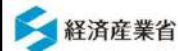
出典:知的財産推進計画2019

Keidanren
Policy & Action

Society 5.0 実現に向けた ベンチャー・エコシステムの進化

2019年2月19日

一般社団法人 日本経済団体連合会



経済産業省

事業会社と研究開発型ベンチャー企業の
連携のための手引き(第三版)

経済産業省 産業技術環境局 技術振興・大学連携推進課
平成31年4月(Ver.1.0)





2. 既存企業がVSと連携する目的

- ◆ イノベーション(R&Dの外部委託)
- ◆ 文化(社内文化の変革)
- ◆ 新規市場(新規市場へのアクセス)
- ◆ プラットフォーム(自社プラットフォームの拡大)
- ◆ 問題解決(手法の導入)
- ◆ 企業イメージ戦略
- ◆ 情報収集
- ◆ ファイナンシャル・リターン
- ◆ 他社に取られないように
- ◆ なんとなく・・・



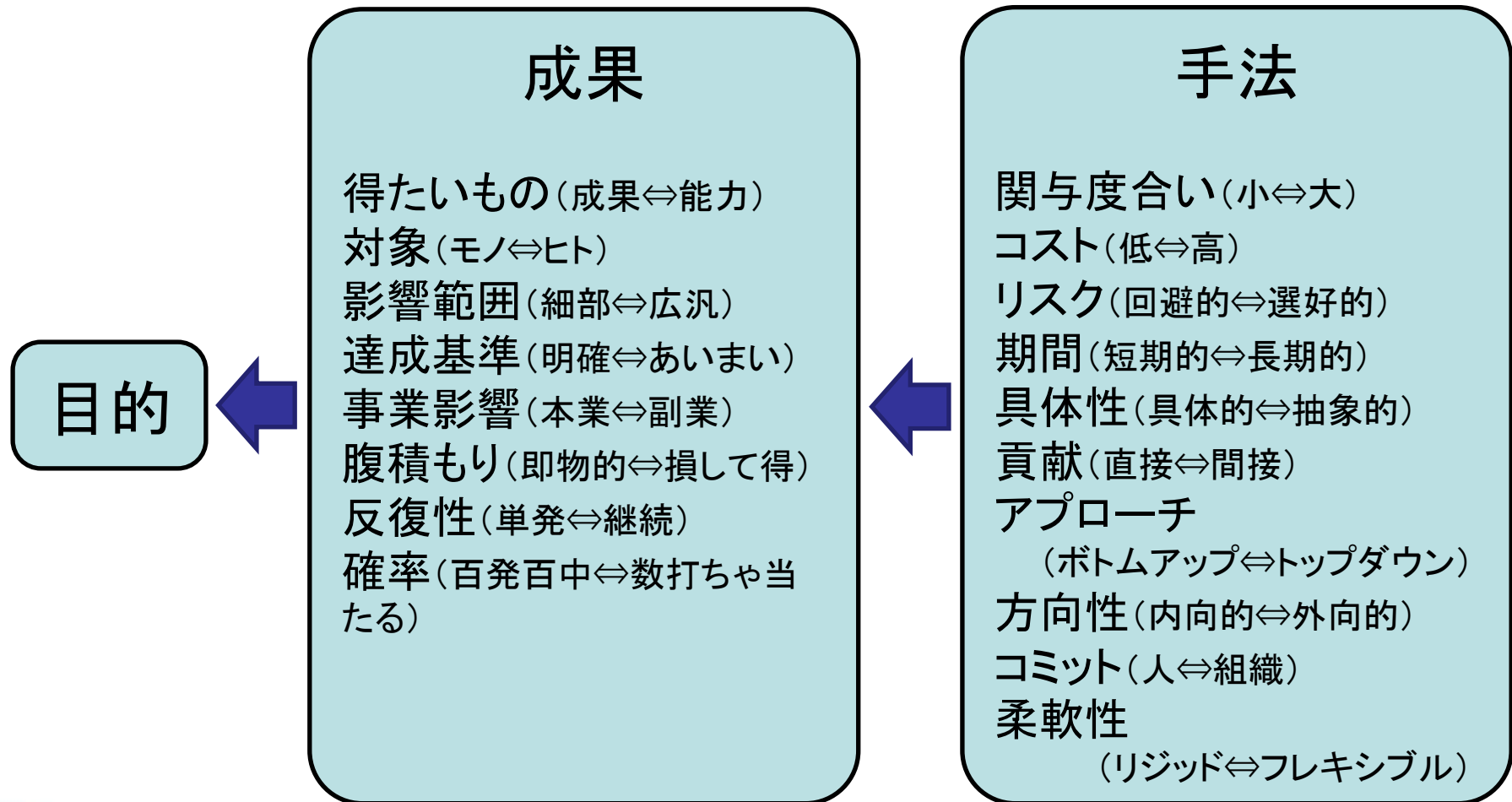
3. 連携の手法

- ◆ 取引関係の構築
- ◆ パートナーシップ（共同開発、共同マーケ）
- ◆ 買収
- ◆ 出資
- ◆ 各種サポート
 - － イベント（スタートアッププログラム、コワーキング・スペース、コンペ、ハッカソン）
 - － その他サポート（法務、会計、経営、技術、コンサル、マーケティング、メンター、顧客紹介、サプライヤー紹介等）



4. 目的・成果・手法の決定

◆ 視点軸の例:





5. VS連携の仮想事例～事例A～

- ◆ 電機業界
- ◆ 既存主力事業の縮小への危機感から、顧客との共創のためのイノベーションセンターを設置
- ◆ 数十件のプロジェクトを並行して進行
- ◆ 既存事業関連領域から革新的な領域までバラエティを重視
- ◆ 連携形態はフレキシブル(出資・貸付・その他)

【目的】

顧客との接点創出、組織風土変革・人材育成



5. VS連携の仮想事例～事例B～

- ◆ 化学業界
- ◆ 競争力のある本業に近い領域を対象
予めビジネスモデルを明確にし、
足りない部分をOIIに期待
- ◆ R&D部門がコミットして活動

【目的】

新規事業(本業)の創出
多額の投資を準備している



5. VS連携の仮想事例～事例C～

- ◆ 自動車業界
- ◆ 産業構造の変化に対応した新たな技術課題への取り組みとしてのOI
- ◆ 未知の領域探索のための連携を探索
- ◆ 業界全体が同様のOI活動に迫られており、出遅れないための活動

【目的】

未知の技術の取り込み

将来の産業プラットフォームの主要プレイヤーであるための主導権争いへの参戦

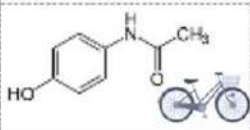



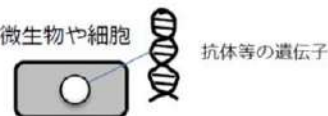


5. VS連携の仮想事例～事例D～

- ◆ 製薬業界
- ◆ 低分子医薬の基本特許切れを控え、新たな収入源を求めて、バイオ医薬(細胞遺伝子医療、抗体、ワクチン)等の新たなモデルの研究開発のためOI活動を実施
- ◆ 相手はアカデミア発のVS
- ◆ 成功確率やビジネス面について厳格な評価

【目的】

VSの有するシーズを
ライセンスインして
製品化

	一般的な医薬品	バイオ医薬品	
大きさ (分子量)	100~	約1万~ (ホルモン等)	約10万~ (抗体)
大きさ・複雑さ (イメージ)			
製造法 (イメージ)	化学合成 	微生物や細胞の中で合成 	
生産	安定	不安定 (微生物や細胞の状態で生産物が変わり得る。)	

出典:厚生労働省 バイオシミラー「有効成分、製法等が先発品と同一のバイオ医薬品の取り扱いについて」



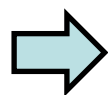
5. VS連携の仮想事例

	事例A 電機	事例B 化学	事例C 自動車	事例D 製薬
期間	短	中	短	長
コミットレベル	低	高	中	高
連携対象	多	中	多	少～中
要求知財レベル	低	高(自社同等)	中	高
知財確保の必要性	低	中(使用権必須)	中(使用権必須)	高 or 中(使用権必須)
知財支援の対象	VS	自社	自社	自社・VS
知財支援の目的	PFサービス	自己ビジネスの安全	競争優位性の確保	連携判断の材料 投資回収
知財支援のタイプ	発明抽出 出願アドバイス	侵害回避調査	IPランドスケープ ^o	共同出願 クレーム確認 他社出願状況



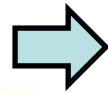
6. 知財部門の課題

- ◆ 連携と成果のつながりについて理解が不十分
 - 知財を確保してどう活用?
- ◆ 早期段階から関与できていない。故に、
 - 不必要に保守的なアプローチをとる
 - 古典的な知財思考(志向)による、プロジェクトの阻害または知財問題の無視



連携の目的・成果・手法について十分に理解
早期から関与

- ◆ なぜ支援が有用/必要なのか議論が深められていない
- ◆ VS側に知財リテラシーが育っていないと、ただの管理屋のクレーム。⇒共創のスピードダウン?



VSが知財管理・知財戦略を持つ重要性を、
パートナーの視点から考える



7. これからに向けて

- ◆ 連携の成果について「現実的」な期待を
- ◆ 社内でも現実的な成果の認識を共有
- ◆ 状況変化への柔軟な対応
- ◆ VSとのWin-Winの共通認識の構築
- ◆ VSの視点を含んだ
アドバイザーとしてのポジションを社内で確立

活用視点の知財戦略の重要性

ご清聴有難うございました



～世界から期待され、世界をリードするJIPA～



一般社団法人日本知的財産協会



「脱平均」時代の共創イノベーション戦略とは

PROGRAM タイムテーブル

- 14:00～14:15 開会挨拶 久慈 直登 JIPA専務理事
- 14:15～14:45 **I プロジェクト報告：ベンチャー連携において従来企業の知財部門が直面する課題**
報告者 長谷川 正憲 JIPA知財活性化PJサブリーダー（キヤノン株）
- 14:45～14:55 **講演者・パネリスト紹介**
紹介者 大水 真己 JIPA常務理事・知財活性化PJリーダー（富士通株）
- 14:55～15:25 **II 基調講演：『価値デザイン経営』によるベンチャーとのイノベーション**
講演者 住田 孝之氏（前 中興産知的財産戦略推進事務局長）
- ～ 休憩 ～
- 15:30～16:30 **III パネル討議：すべての参加者に Win-Win をもたらすエコシステムを目指して**
モデレータ 大水 真己（前出）
パネリスト 住田 孝之氏（前出）
北野 譲治氏（イーパーセル株）
平井 宏明氏（三井住友海上キャピタル株）
高江 瑞一氏（株日立製作所）
- 16:30～16:45 閉会挨拶 佐野 裕昭 JIPA副理事長（住友電気工業株）
- ～17:00 退室（東京会場は、混雑回避のため、エレベータは使わず階段にて1階までお降り下さい）
- 17:00～18:00 登壇者を囲む意見交換会（TGビル本館2階 カンファレンスルーム202）